

事業報告書

2021年度

社会福祉法人 広寿会





広寿会の



2021年



令和3年度
社会福祉法人広寿会 事業報告書
目次

1. 法人部門.....	5
【運営理念】	5
【基本方針】	5
〈ひろた職員心得〉	5
【令和3年度目標の評価】	6
〔1〕 法人の概要	9
〔2〕 役員等の状況	9
〔3〕 令和3年度評議員会開催状況	9
〔4〕 令和3年度理事会開催状況	10
〔5〕 職員の状況	11
2. 施設部門.....	12
【令和3年度目標の評価】	12
〔1〕 施設部門の状況	12
(1) 施設の種類	12
(2) 運営状況（利用状況）	12
(3) 利用者の状況	13
〔2〕 事業内容	14
(1) ユニットの状況	14
(2) 行事報告	14
〔3〕 委員会	15
(1) 施設ケア会議	16
(2) サブリーダー会	16
(3) 事故防止委員会	17
(4) 排泄委員会	18
(5) ユニット会	18
(6) 身体拘束廃止委員会	19
(7) 褥瘡予防委員会	20
(8) 感染予防対策委員会	20
(9) 医療安全管理委員会	21
(10) 苦情検討委員会	21
〔4〕 その他の会議	22
(1) 第三者委員会	22
(2) 利用者相談会「いどばた会議」	22
(3) 家族の会	22

3. 在 宅 部 門.....	23
〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた	23
【令和3年度目標の評価】	23
(1) 運営状況	23
(2) 苦情受付	24
(3) 地域連絡会	24
〔2〕 やまの里たまたに	24
【令和3年度目標の評価】	24
(1) 運営状況	25
(2) 事業内容	26
(3) 事故報告	27
(4) 運営推進会議	27
(5) 苦情受付	28
(6) 在宅ケア委員会	28
(7) 業務改善委員会	29
〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）	29
【令和3年度目標の評価】	29
(1) 運営状況	30
(2) 事業内容	32
(3) 事故報告	33
(4) 苦情受付	34
(5) 在宅ケア委員会	34
〔4〕 砥部町地域支援事業（砥部町受託事業）	34
(1) 転倒予防教室	34
(2) 地域住民グループ支援事業	34
(3) いきいき見守り配食サービス	35
〔5〕 支援ハウス（砥部町受託事業）	35
(1) 運営状況	35
(2) 行事報告	35
4. 会 議 等.....	36
〔1〕 運営委員会	36
〔2〕 職員会	36
〔3〕 広報委員会	37
〔4〕 防災委員会	37
〔5〕 給食委員会	38
5. 研 修 等.....	42

1. 法人部門

【運営理念】

「ノーマライゼーションの理念を大切に」

- 1 自立支援〈できるだけ自立した生活の支援〉
- 2 自己決定〈できるかぎり本人による選択・決定〉
- 3 権利擁護〈いつの場合も個人の権利を守る〉

【基本方針】

「一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指して

- 1 利用者一人ひとりを見つめ、最期まで尊厳ある生活の実現
- 2 利用者の人権、プライバシーの保護
- 3 在宅高齢者の生活支援、QOLの向上
- 4 保健・医療・福祉の連携を強め、地域の福祉ニーズに応える
- 5 研修及び自己啓発等により職員の資質向上を図る

〈ひろた職員心得〉

今日も一日

1. さわやかな挨拶を交わします

2. 明るい笑顔で接します

3. 思いやりのある言葉で接します

4. 愛と真心を持って介護します

これらを胸に

働ける幸せに感謝します

【令和3年度目標の評価】

(1) 満足度の高いサービス提供と地域に根差した事業所づくり

コロナ禍での事業も2年を超えた。感染状況を注視しながら、各事業所において感染防止対策を徹底しつつ、いかに利用者の満足度を高めることができるか検討を重ねた。施設部門においては、少人数単位でのレクリエーションの実施、個別での散歩や外出等で日常の中での楽しみを増やせるよう努めた。在宅部門においては、脳トレや塗り絵、ちぎり絵等を利用者に応じて提供し活動の幅を増やすよう努めた。このような中、迷いながらも運動会やもちつき等は事業所合同で行い、利用者同士が触れ合うその活気ある姿には、多人数での活動の良さや交流の効果を改めて実感した。



【特養ひろた オンライン面会ブース】

特別養護老人ホームひろたでは、愛媛県の補助金を活用してオンライン面会システムを整備した。都市部に比べるとオンライン面会のニーズも使用頻度も低いかもしれないが、コロナの脅威はまだ当分続きそうなので、利用者、家族、そして働く職員の安心、安全につながる取り組みは可能な限り実行したい。

そして3年度は、広田地域の在宅生活の限界点を上げるべく、5月に小規模多機能型居宅介護事業所「やまの里たまたに」が事業を開始した。職員数の問題から登録人数12人でスタート

したが、独居高齢者の支援に重点を置いたことで訪問支援は11月以降月平均250回に上り、食事、服薬、安否確認等、利用者や家族のニーズに応じで幅広く対応している。やまの里たまたにの利用開始前は月の大半をショートステイで過ごしていた利用者も、今は訪問サービスを中心に通いサービスを併用して問題なく生活されている。在宅生活を支えるということは、住み慣れた自宅での時間をできるだけ確保し、安心して過ごしていただくことと再認識した。



【やまの里たまたに
訪問支援食事の準備】

ただ、サービスの選択肢が増えたことは、地域で生活する高齢者にとって大きな安心であり、メリットのあることは間違いないが、ショートステイ、デイサービス、そして居宅の既存サービス側から見ると、小規模多機能の開始が経営に与えたマイナスの影響は小さくなく、事実、稼働は低下している。過疎地域でのサービス持続は年々厳しさを増しており、安定運営のための努力を最大限実行していかなければならない。地域の高齢者の中には、介護サービスが必要と認められるにもかかわらず、利用に消極的な方も少なくないので、こちら側から広くアピールしてそのような方に住み慣れた自宅で元気に過ごせる支援を提案していくことも必要だと感じている。そのためにも、それぞれのサービスが持つ特性や事業所の強みは何か、より良い支援とはどういうものか、今一度これらを追求しなければならない。

事業継続計画(BCP)の策定については、研修機会を持ちながら策定に向けて思案している。計画には大地震、大雨や大雪等の自然災害に加え、新型コロナウイルス流行を経験し、感染症発生時の対策も求められている。限られた職員数、設備、資金でこれらの有事に対する備えを

進めていくことは、非常に困難な問題である。しかしながら、計画策定の重要性は十分に認識しており、できるだけ具体的で実効性の高いものを作るよう根気よく進めていきたい。

(2) 職員の資質、専門性の向上と働き甲斐のある職場づくり



【法人内での介護福祉士実務者研修】

専門性の向上として資格取得を積極的に支援するべく、オンラインを活用した法人内での介護福祉士実務者研修を取り入れ、5人の職員が受講した。半年に渡る研修では定期的な課題提出もあり、働きながらのチャレンジは決して楽ではなかったと思う。残念ながら2人がそれぞれの事情で受験を辞退したが、3人は介護福祉士国家試験に臨み、合格した。合格した職員の表情を見ていると、やはり資格取得は大きな自信をもたらし、より意欲的に業務に取り組む契機になると確信した。

法人内部で行う研修は法定研修に加え、専門的知識や接遇等、その内容は多岐に渡る。これまで月2回程度の集合研修を行っていたが、感染対策及び働き方改革への対応として新たにeラーニング研修を導入した。勤務中の空き時間にタブレット等で受講できたり、また職員個々のペースで学べたりする自由度は大きな利点であり、階層別研修や中間管理職以上のコミュニケーションスキル（指示や指導の仕方）向上を目的とした社外コーチング等もプログラムに取り入れている。職員が個々のレベルや求めに応じで学べる環境をさらに充実させ、知識や技能の習得をしっかりとバックアップしていきたい。

人材の確保の問題は広寿会だけの問題ではなく、介護業界全体、さらには地方のあらゆる業界共通の大きな課題と言えるだろう。広寿会のような山間過疎地で地元の若い労働力を見つけることは難しく、また民間の様々な人材紹介サービス等を利用しても、効果はない。この現状を打開する一つとして、4年度中の外国人技能実習生受け入れを決定し、その準備に着手した。

いま、国や業界団体も介護人材確保のために様々な施策を講じている。それを上手く活用するのはもちろんだが、広寿会で働く自分たち自らがこの仕事、そしてこの職場が好きだと自信を持って言えないようでは、一緒に働きたいと思う仲間等到底集まってくるはずがない。魅力ある職場にするために何が必要か、また広寿会で働きたいと思ってもらうためにはどうすればよいか。他人任せにせず、職員みんなが一つになってこの難題にしっかり取り組みたい。

(3) 未来を見据えた活力のある法人経営

3年度は、開設から21年目を迎えた本体施設の空調設備更新や外壁補修等、大規模な改修工事を実施した。長引くコロナの影響による資材不足、さらに利用者が生活をしながらの工事であったことからウイルスの持ち込みや騒音等、大変心配したが、請負業者の協力もあって大きな混乱等なく予定どおり無事に工事を終えることができた。この改修工事には、国庫補助（地域医療介護総合確保基金）に加え、



【特養ひろた大規模改修工事】

砥部町の補助金（砥部町高齢者施設整備事業）も使わせていただき、資金面で非常に助けられた。感謝の気持ちを忘れず、引き続き、社会福祉法人の使命を果たすべく、地域の高齢者の支援にまい進したい。

介護分野では将来的な人材不足に対応すべく、ICT化が推進されている。広寿会でも、法人全体での情報共有とペーパーレス化を進めるために、新たに介護記録システムを導入した。



【特養ひろた見守り機器】

さらに施設部門においては、介護ロボット補助金を活用し、見守り機器を導入した。睡眠時の呼吸や心拍を測定できるほか、睡眠状態や離床等の動きも把握可能なことから見守りの必要な利用者や看取り期の利用者の状態把握がかなり容易になった。しかしながら、台数が限られており、必要な利用者全員には行き渡っていない。今後、機器使用の効果を見極め、良いとなればさらに整備し、ケアの質の向上や業務改善として拡充を図っていききたい。

小規模多機能型居宅介護事業所の地域における必要性は疑う余地もないが、経営的にはスタートから厳しい状況が続いている。早期に登録人数を増やしていくことが重要で、これには職員の確保が大きなカギとなる。迅速かつ広範囲に情報発信するためにも、ホームページの刷新を4年度中には実現し、利用者にも、求職者にも選ばれる法人としての取り組みを強化したい。

感染対策費用の増、そして世界情勢の影響による物価高騰で経費率が上昇している。4年度以降、これがどうなっていくのか非常に気がかりである。資金都合等の理由から、3年度大規模改修で見送った箇所の改修、そして多数の備品更新も計画しなければならない。職員全員で危機感を共有しつつも、プラス思考で前に進んでいきたい。



【特養ひろた大規模改修工事完了検査】

〔1〕法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 広寿会
2. 所在地 愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地
3. 法人の事業
 - ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホームの経営
 - ② 第2種社会福祉事業
 - (イ) 老人短期入所事業の経営
 - (ロ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ハ) 地域密着型通所介護事業の経営
 - (ニ) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の経営
 - (ホ) 介護保険法に基づく介護予防通所介護事業又は第1号通所事業の経営
 - (ヘ) 生活支援ハウスの経営
 - (ト) 小規模多機能型居宅介護事業の経営
 - ③ 公益事業
居宅介護支援事業

〔2〕役員等の状況

1. 構成（令和4年3月31日現在）

評議員	定数	7人
理事	定数	6人
監事	定数	2人

〔3〕令和3年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
令和03年06月26日 (評議員) 5人 (監事) 2人	報告	第1号 令和2年度事業報告について
	議案	第1号 令和2年度計算書類の承認について
		第2号 令和3年度第一次補正予算案の承認について 第3号 理事及び監事の選任について
令和04年03月28日 (評議員) 6人 (監事) 2人	議案	第4号 令和3年度第二次補正予算案の承認について
		第5号 理事及び監事の報酬について
		第6号 令和4年度事業計画案の承認について
		第7号 令和4年度当初予算案の承認について

〔４〕令和３年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
令和03年06月11日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第1号 理事長専決事案に係る同意について 第2号 令和2年度事業報告並びに決算の承認について 第3号 規程の一部改正について 第4号 特別養護老人ホームひろた大規模改修工事及び空調設備更新工事設計図書の承認について 第5号 特別養護老人ホームひろた空調設備更新工事の入札執行について 第6号 修繕積立資産の取り崩しについて 第7号 令和3年度第一次補正予算案の同意について 第8号 理事及び監事の候補者決定について 第9号 評議員選任候補者の推薦について 第10号 評議員選任委員会の招集について 第11号 評議員会の招集について
令和03年06月26日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第12号 理事長の選定について 第13号 評議員選任委員会委員について
令和03年07月27日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第14号 理事長専決事案に係る同意について 第15号 特別養護老人ホームひろた空調設備更新工事入札結果及び工事請負契約の締結について 第16号 法人所有不動産の売却に係る専任媒介契約の締結について
令和03年09月06日 (決議の省略)	議案	第17号 特別養護老人ホーム大規模改修工事に係る入札執行の件
令和03年10月08日 (決議の省略)	議案	第18号 特別養護老人ホームひろた大規模改修工事請負契約締結の件 第19号 理事長専決事案に係る同意の件
令和04年02月21日 (理事) 5人 (監事) 2人	議案	第20号 理事長専決事案に係る同意について 第21号 特別養護老人ホームひろた大規模改修工事変更請負契約の締結について 第22号 たちばなの家じゃんけんぼんの事業廃止について 第23号 就業規則違反に関する審査について
令和04年03月18日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第24号 規程(規則)の一部改正等について 第25号 令和3年度第二次補正予算案の同意について 第26号 令和4年度事業計画案の同意について 第27号 令和4年度当初予算案の同意について 第28号 評議員会の招集について

〔5〕 職員の状況

【職員数】

単位：人

	常勤				短時間勤務職員		計	
	正規職員		準職員		2年度	3年度	2年度	3年度
	2年度	3年度	2年度	3年度				
男	10	12	1	0	2	1	13	13
女	15	16	4	3	15	16	34	35
計	25	28	5	3	17	17	47	48

※ 各年度3月31日現在

【勤続年数】

単位：人

		1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年～ 15年未満	15年以上	計	
常勤職員	正規職員	男	1	1	3	3	1	3	12
		女	2	0	3	3	2	6	16
	準職員	男	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	2	1	0	3
非常勤職員	男	0	1	0	0	0	0	1	
	女	2	2	4	5	3	0	16	
計		5	4	10	13	7	9	48	

※ 令和4年3月31日現在

【有資格者数】

単位：人

	看護師		准看護師		社会福祉士		介護福祉士		管理栄養士		介護支援専門員	
	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
男	0	0	0	0	0	0	8	9	0	0	2	2
女	2	4	6	4	0	0	14	14	2	2	2	2
計	2	4	6	4	0	0	22	23	2	2	4	4

※ 1人で2以上の資格を有するものについては、それぞれに計上

※ 各年度3月31日現在

【研修修了者の推移】

単位：人

認知症対応型 サービス事業 開設者研修		認知症対応型 サービス事業 管理者研修		小規模多機能型 サービス計画 作成担当者研修		認知症介護 実践者研修 (実践リーダー研修)		認知症介護 実践者研修	
2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
1	1	2	2	1	1	1	1	6	6

※ 1人で2以上の受講を修了するものについては、それぞれに計上

※ 各年度3月31日現在

2. 施設部門

【令和3年度目標の評価】

【重点目標】 利用者の笑顔あふれる施設づくり

3年度は、状態の変化を察知する機会となるダブルチェックによる早期発見や対応、感染対策の徹底で、入院件数は4件、延べ入院日数も36日と目標の100日を大幅に下回ることができた。

新型コロナウイルス感染症の影響で、行事や外出の中止・家族の面会制限等続く中、感染状況を見ながら感染対策を行った。その中、四季の移り変わりを感じてもらえるようなプランを個別に計画し、少しずつ実施することができた。また、生活という場で、利用者が一番楽しみにされている『食』を通して少しでも気分転換になればと、感染状況を見ながらユニットでの食事作りを継続した。「きれいななあ」「美味しそうなあ」「これは珍しい」という言葉や笑顔が見られ、利用者・職員ともに気分転換になりリフレッシュすることができた。

記録システムの導入や業務改善により、能率的に仕事ができ、目標であった5連休取得とまではいかなかったが3連休取得はできた。仕事にメリハリができ心に少し余裕がもてるようになった反面、記録がすべてパソコン入力となったため、記録の漏れや個々の充実した生活記録が少なく課題となった。

施設内研修については、Web研修を導入し、各職員が業務時間内に視聴することで、研修会へ参加する時間の効率化を図ることができた。また、研修レポートを提出してもらうことで、職員の学習度合を把握できた。今後のレベルアップ、サービスの質の向上につなげていきたい。

コロナ禍でもできる生活の仕方を模索しながら、職員、利用者が楽しみを見つけ笑顔あふれる施設でありたいと願う。(文責：上谷)

〔1〕施設部門の状況

(1) 施設の種類

- ①特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設） 定員 30人
- ②老人短期入所事業所（指定短期入所生活介護事業） 定員 6人

(2) 運営状況（利用状況）

【指定介護老人福祉施設】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2
稼働率(%)	99.7	100.0	100.0	100.0	100.0	97.3	98.0	99.3	100.0	100.0	99.6	100.0	99.4

※ 2年度稼働率 99.5% (空床利用含)

【指定短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用件数	14	14	12	13	12	11	11	12	13	13	12	12	12.4
稼働率(%)	100.0	96.2	91.6	91.4	100.0	93.8	96.2	97.2	94.0	90.3	97.0	97.3	95.4

※ 2年度稼働率 99.6%

※ 3年度全体（特養+短期）稼働率 99.4% 2年度全体（特養+短期）稼働率 99.5%

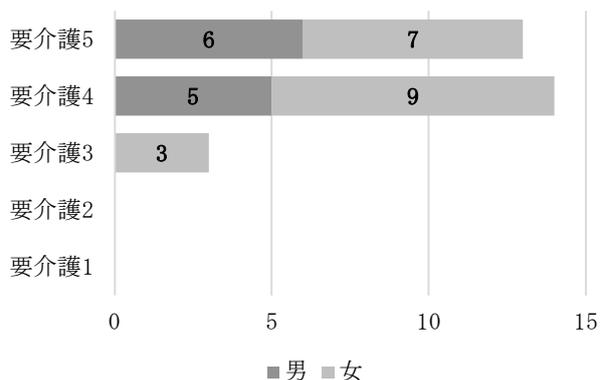
(3) 利用者の状況

【入居・退居状況】

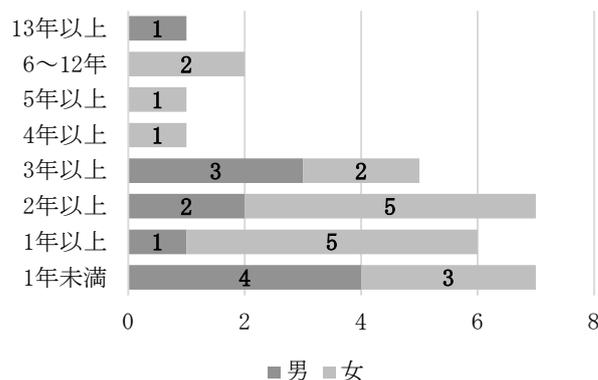
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	2	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	8
退居	3	0	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	8

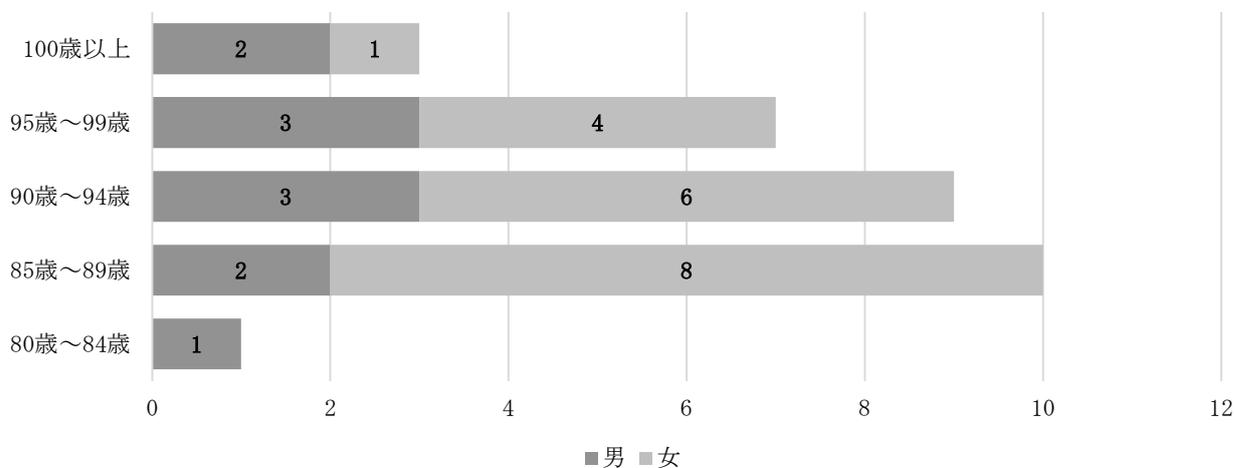
【要介護度別入居者状況】 令和4年3月31日現在



【入居期間】 令和4年3月31日現在



【年齢区分別構成状況】 令和4年3月31日現在



【入院経過状況】

件数	入院日数	入院期間	入院原因
1	5日	R03.03.12 ～ 04.05	糖尿病悪化（入院中に退居その後死亡）
2	5日	03.16 ～ 04.06	閉塞性動脈硬化症・心筋梗塞
3	0日	09.01 ～ 09.01	肺炎（入院当日死亡）
4	8日	09.01 ～ 09.10	肺炎
5	13日	10.12 ～ 10.26	左大腿骨遠位端骨折
6	5日	R04.02.18 ～ 02.24	誤嚥性肺炎
計	36日		

※ 2年度入院 6件 延べ入院日数 110日

※ 入退院日は入院日数に含めない

【入居申込状況】 令和4年3月31日現在

単位：人

	要介護3以上	要介護2以下	計
広田地区	7	9	16
内子町(小田地区)	12	8	20
その他	14	6	20
計	33	23	56

〔2〕事業内容

(1) ユニットの状況

(2) 行事報告

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施
(実施内容)

定期開催 (感染状況にあわせて)

食事作り・おやつ作り (ひろた 20 周年記念ケーキ作りほか)

季節行事等

外出行事：尾首の池・断層公園・施設近隣 (お花見)

個別対応 (外出、お墓参り)

施設内行事：手打ちうどん、屋台、デザートバイキング、もちつき・もちバイキングほか
ボランティア

散髪ボランティア (偶数月)

《振り返りと課題》

感染状況に応じて行事計画を修正し、感染対策をとりながら外出企画や食事作り等の行事を行った。また、やまの里たまに、砥部町デイサービスセンターとの合同レクの実施や広田小学校の運動会、亥の子等の地域交流も状況をみながら実施した。

自宅への帰省や道の駅への散策・買い物等の外出は 11 件行うことができた。中でも、自宅への帰省やお墓参り等での利用者の表情は普段とは違い、同行した職員にとっても新たな気づきとなっている。またリビングで、季節にあわせた料理や畑で作った野菜を使った料理、利用者に喜ばれるスイーツ作り等を行った。感染状況によっては作る過程を見る時期もあったが、可能な範囲で職員と一緒に作ることができ、おいしく味わうことができた。

制約は多くあるものの、安全にかつ楽しんでもらえるよう工夫し、利用者の笑顔や生き生きとした表情を見ることができた 1 年だった。新型コロナ流行前のような生活に戻ることは難しいが、今後も感染対策をしっかりと行い日常生活に花を添えていきたい。(文責：吉見)



【自宅へ外出】

《行事写真》



【お花見・施設周辺】



【花見・断層公園】



【屋台】



【いもたき作り】



【旧小田町・道の駅】



【もちつき】

〔3〕委員会

【委員会の種類と構成】

利用者の生活の質の向上、健康管理やケアの方法等について、関係職員で構成する会議及び委員会で専門的に分析・検討し、方針決定する。

委員会等の名称	職名等	施設長	部長	生活相談員	看護主任	副主任	管理栄養士	介護支援専門員	ユニットリーダー	サブリーダー	ユニット職員	その他関係職員
(1) 施設ケア会議		●	●	●	●	●	●	●				
(2) サブリーダー会				●	●	●				●		
(3) 事故防止委員会		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(4) 排泄委員会				●	●	●				●		
(5) ユニット会				●	●	●	●	●	●	●	●	
(6) 身体拘束廃止委員会		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(7) 褥瘡予防委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			
(8) 感染予防対策委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			
(9) 医療安全管理委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			
(10) 苦情検討委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			●

※ 「その他関係職員」とは、在宅部門や管理部門職員で、協議事案に直接または間接的に関係する職員

(1) 施設ケア会議

(開催日) 毎月第3水曜日

(主な協議事項)

ユニット状況報告、業務連絡、職員指導、新型コロナウイルス感染対策

開催日	協議事項
R03.04.15	記録システム報告
05.19	新人職員報告 改修工事対応方法検討
06.16	見守り機器デモ機導入検討 職員の休憩状況
07.21	記録システム使用状況確認・検討
08.24	家族の面会方法検討
09.15	時間外勤務提出方法 改修工事対応方法検討
10.20	事故対応検討
11.17	大規模改修工事対応方法検討
12.15	記録システム使用状況確認・検討 改修工事対応方法検討
R04.01.19	環境整備検討 改修工事対応方法検討
02.16	改修工事報告 人事報告
03.16	苦情検討 見守り機器操作説明

《振り返りと課題》

3年度は、主に記録システムの導入、新型コロナウイルス感染対策、改修工事、業務改善等について検討を行った。記録システムに関しては、スムーズに移行できるよう事前研修を実施し、導入後は職員間で情報共有や提案等を行った。最初は戸惑いもあったが、入力方法を工夫する等、操作にも徐々に慣れて記録に要する時間が短縮でき始めている。今後は、課題である記録漏れをなくし、根拠となる記録等ができるようにしていきたい。

新型コロナウイルス感染対策に関しては、そのときの状況に応じて、面会の制限や感染予防のリビングの席の配置等調整を行った。また、会議を通して注意喚起もした。それにより、一人ひとりが意識して感染予防に努めることができた。

改修工事に関しては、秋口からの着工に伴い、利用者が混乱することなく安全に進められるよう情報共有したり、ユニットの生活の場所を変更したりして対応した。

業務改善に関しては、各ユニットで業務の見直しを行い、それぞれの時間帯の勤務者が無理なく休憩が取れるよう検討した。(文責：藤岡)



【記録システム】

(2) サブリーダー会

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 事故検討、事故防止対策、ケアの方向性・確認

《振り返りと課題》

3年度も排泄ケアや事故検討を中心に実施をした。会議で難しい案件に関しては、施設ケア会議へ議題を上げ再検討行っている。

(3) 事故防止委員会

①件数・・・122件

ヒヤリハット・・・46件(特養44件・短期入所2件)

《危険度0》	… 事故を未然に防ぐことができた	3件
《危険度1》	… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった	43件

事故報告書・・・76件(特養69件・短期入所7件)

《危険度2》	… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要	54件
《危険度3》	… 簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用)	20件
《危険度4》	… 濃厚な治療を要した(骨折・縫合・入院等)	2件

※2年度件数…129件(ヒヤリハット57件 事故報告書72件)

②事故・ヒヤリハットの内容と件数

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
内出血	30
ベッドから転落	3
一人で歩かれていた	1
転倒	1
ひっかき傷	1
ベッド柵設置忘れ	1
その他	9

事故報告書内容別発生件数	
転落	23
皮膚剥離	19
転倒	18
配薬ミス	3
爪切り中	2
誤嚥(食事を詰めそうになる)	2
異食	1
切り傷	1
介助での内出血	1
バルン抜去	1
その他	5

③分析

事故等の総件数はほぼ変わっていないが、皮膚に関するものは63件から50件に減少した。利用者の動きに応じた環境の改善、介護ロボット活用を含めた移乗及びポジショニング等の介助方法の見直しや統一が減少につながったと思われる。皮膚が弱く、物に触れる等少しの衝撃で内出血ができやすい利用者数が増えているため、引き続き再発防止に向けて取り組んでいく。

3年度は、歩行や車椅子を自走されるが転倒リスクの高い利用者の入居が多く、見守りや転倒予防の観点からセンサーマットの使用が増えた。3年度転倒事故の発生件数は2年度(転倒事故15件、転落事故25件)からほぼ横ばいだが、入居後居室での転倒事故があった利用者2人については、センサーマット設置後5件あった事故は0件となった。このことから、早期対応で未然に防ぐことが、結果として、大きな事故を防ぐことにつながっているのではないかと感じる。そのほか、2年度にはなかった誤嚥が2件発生した。いずれも普通食の方が食事を詰めそうになったケースで、職員がすぐに対応し事なきを得た。

介護保険事故に関しては、特養利用者がベッドのリモコンに触れ、高さが上がった状態から転落して骨折する事故と居室で転倒し床頭台で額をぶつける事故の2件が発生した。ベッドからの転落

事故については、普段から自分でベッドから下りられることがあり、床にマットレスを敷く対応をしていたが、ベッドのリモコンを利用者が触る可能性を考慮できていなかった。居室での転倒事故については、新規入居されたばかりで状態の把握をしている段階での事故であった。この2件の事故は、認知症利用者の行動予測が甘かったことが原因であることから、認知症研修やリスクマネジメント研修、委員会等で引き続き検討を行い、事故の起こりにくい環境整備に努めていきたい。(文責：山田)

(4) 排泄委員会

(目的) 排泄アセスメントを行い、排泄パターンの見直しと排泄用品の適正使用を検討する。

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 排泄アセスメント・排泄用品の見直し

《振り返りと課題》

年間延べ44人の尿量測定と排泄アセスメントを実施し、個々にあったトイレの誘導時間や使用する排泄ケア用品の検討を行った。尿量測定の結果から排尿がない時間帯を見つけ、その間はパッドを使用せずに過ごすことができるようになった事例があった。また、10月より排泄用品の見直しを行い、利用者が日々使用するものであることから、サンプル品を使用しスキントラブル等の観察やコストを比較し、11月に変更した。変更後も排泄用品の適正使用を検討し経費削減に努めた。

重度化が進んでおり排泄ケアはより難しくなっている。そのため体調の変化に応じて排泄ケアの見直しが必要になることも多い。今後も尿量測定や排泄アセスメントを継続し、日々の細やかな観察を行い、個々にあった快適な排泄ケアを検討していく。(文責：吉見)

(5) ユニット会

(目的) ケアの方向性の検討・確認 委員会報告を行う。

(主な協議事項) ケース検討 リハビリ方法 褥瘡予防 身体拘束廃止 感染予防

各委員会報告 栄養ケアマネジメント ヒヤリハット・事故報告検討

【一丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
R03.04.	(書面開催) デスクカンファレンス 新しい記録システム導入報告	10.26	新規利用者のケア検討 デスクカンファレンス 重大インシデント事故検討
05.27	新規利用者のケア検討 事故対策検討	11.29	デスクカンファレンス 新規利用者のケア検討 重大インシデント事故検討
06.25	服薬事故に対する対応方法検討 重大インシデント事故検討	12.16	新規利用者のケア検討 一丁目改修工事に向けて
07.26	利用者の体調管理の留意点(衣類調整等) 脱水予防、熱中症対策	R04.01.28	環境整備検討 感染予防
08.30	職員・利用者の感染対策 排泄ケア、パッドの見直し	02.	(書面開催) 事故検討事例の振り返り
09.28	デスクカンファレンス 職員間での連携検討	03.	(書面開催) 移乗介助の見直し

【三丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
R03. 04.	(書面開催) 事故検討	10. 22	食事ケア見直し 事故検討
05. 24	食事ケア見直し	11. 18	デスカンファレンス
06. 23	重大インシデント事故検討	12. 21	移乗方法の検討
07. 27	脱水予防	R04. 01. 27	事故検討
08. 27	感染予防	02.	(書面開催) 感染予防
09. 30	新規利用者のケア検討	03.	(書面開催) 食事ケア見直し

《振り返りと課題》

3年度は業務改善やケアの見直しとあわせて、休憩時間の取り方を工夫した。現場を気にせず休憩が取れると、仕事の能率も良い。その日の状況によって決まった時間に休憩することが難しいときもあるが、みんなで相談をして、上手く両立を図っていききたい。

また、介護ロボットや見守り機器の導入に向け、デモ機を試す等話し合いを重ね、安全に業務が行えるよう準備した。また、総合記録シートから記録システムへ記録方法を移行し、使用方法に戸惑いながらも、徐々に使いこなせるようになる等、大きな変化のある年となった。

介護抵抗や職員へのハラスメント対策についても検討を重ね、試験的に利用者と職員を男女別に分けてケアを行っている。

繰り返される事故や重大インシデントは、サブリーダー会で協議をし、再発防止に努めるとともに、ユニットでも研修会をもとに様々な視点から分析し、再発防止策が徹底されるよう努めた。まだ始めたばかりで定着できていないが、同様の事故が繰り返し起こらないように適切に対応していきたい。(文責：梅原)

(6) 身体拘束廃止委員会

(会議目的) 身体拘束を行わないケアを実践する。

(協議事項) センサーマット・ベッド位置・低床ベッド・介護ロボットの使用状況等

【使用状況】

単位：人

種別	特養入居者		ショートステイ		計
	男性	女性	男性	女性	
センサーマット	4	5	1	4	14
低床ベッド	0	2	0	0	2
長いベッド柵	1	1	0	0	2
固定ロック柵	6	6	1	5	18
介護ロボット	1	2	0	0	3

《振り返りと課題》

3年度も、身体拘束に該当する事例及び介護現場でのケアにおける職員のスピーチロック等は特

に確認されていない。

新規入居者については事前の提供情報や入居時カンファレンス開催等に基づき、センサーマット設置や特殊ベッド柵設置の必要性の有無等、様子観察しつつ個々の ADL に応じた環境整備を行った。内容としては、毎月 2 回全居室を巡回し、ベッドの配置やベッド柵の設置状況等の確認を行い、身体拘束につながらないようにしている。また、利用者の日々の身体状態や身体機能、生活状況等の変化を経過観察しつつ、3 か月に 1 回、施設ケア会議等で随時検討し対応を行った。

4 年度も、委員会での状況や検討、職員研修での研鑽、介護ロボット活用及び日々の介護現場における状態変化に対する迅速な対応を行うことで、身体拘束や行動制限を伴わないケアを実践しつつ、利用者の安心・安全・快適な生活環境を提供できるよう努めていく。(文責：雑賀)

(7) 褥瘡予防委員会

(目的) 半年に一回、総合的な観点から、予防、発生者の経過、対応の検討を行う。

開催日	褥瘡発生者	ハイリスク者
R03. 07. 21	1 人	3 人
11. 17	0 人	0 人

《振り返りと課題》

3 年度はターミナルの利用者の背骨の突出部分に褥瘡が発生したが、10 日間で治癒し、きれいな身体でお返しすることができた。ターミナル期の移乗や体位変換、利用者の身体特徴等に合わせたケア方法を検討していく必要性を実感した。特に注意が必要な利用者については、ポジショニングの要領をベッドサイドに掲示する等、統一したケアができるよう今後も努めていきたい。11 月以降は、食事摂取量の安定や栄養剤見直しによりアルブミン値が改善され、それによりハイリスク者もゼロになった。

褥瘡ケアは、排泄、栄養、疾病、身体的特徴等あらゆる観点から総合的にみていくことが必要であるため、多職種で連携して新たな発生がないよう今後も努めていきたい。(文責：上谷)

(8) 感染予防対策委員会

(目的) 3 か月毎に現在の施設内及び周辺地域での感染状況を確認し、予防、発生の対応策等を検討していく。感染対策に関する職員研修を行う。

《振り返りと課題》

3 年度も新型コロナウイルスの感染予防に終始した。感染状況が刻々と変化する中、情報を整理しながら、状況に応じて、職員の生活行動や家族の面会対応方法等を変更し、体調の悪い利用者や職員には早めの抗原検査を実施し感染拡大を未然に防いだ。私生活の中でも感染予防に努めるとともに、日頃から徹底している職場内の感染予防対策により、施設部門では利用者、職員への感染はみられず、インフルエンザやノロウイルス等の感染もなかった。

感染者が発生した場合の対応の備えとして、11 月には愛媛県看護協会主催の専門家による新型コロナウイルス感染症予防についての派遣研修を実施した。感染予防の基本的な対策を忠実に守っていくことの大切さを再確認することができた。



【新型コロナウイルス
感染予防研修】

4年度は自施設の状況にあうBCP計画策定を継続的に協議し作成していく。自由に会話、食事、レクリエーション等ができる当たり前の生活が戻ってくることを願っている。それまでの間、感染対策を行いながら新型コロナウイルス流行前の生活に少しでも近づけられる工夫をしていきたい。
(文責：上谷)

(9) 医療安全管理委員会

(目的) 医療事故防止の徹底と安全に対する意識啓発、対策検討を行う。

3か月に1回医療事故の発生状況を確認し、再発予防策の検討、注意喚起を行う。

開催日	事故内容
R03.04	バルン抜去
07	服薬ミス(服薬忘れ)
R04.01	服薬ミス(利用者が他人の薬を誤薬)
	服薬ミス(服薬忘れ)

※2年度 3件

【医療的処置】

内容	人数
在宅酸素	2人
胃瘻チューブ留置	3人
鼻腔チューブ留置	1人
尿道カテーテル留置	1人

《振り返りと課題》

3年度も服薬に関する事故ゼロを目標にやってきたが、医療事故が4件発生し、うち服薬ミスが3件となった。薬の服薬忘れは初歩的なミスで、確認不足や確認する薬の責任者を明確にできていなかった等の原因があげられ、改善・徹底を図った。

医療事故は人的ミスであり、慣れたころ・忘れたころに必ず発生している。今後も毎月の施設ケア会議等で注意喚起を行い、ダブルチェックや危機管理を徹底する等の対応を行い、医療事故ゼロを目指していきたい。(文責：上谷)

(10) 苦情検討委員会

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：1件

苦情内容： ショートステイ送迎の際に使用する酸素ボンベのスイッチが、入居後にオフになっておらず、退居時に酸素なしで送迎した。家族から「連絡をもらえたら届けるので、送迎中も必ず酸素を使用してほしい」との要望があった。

対応内容： 施設用の在宅酸素に使用手順を記入したものを取り付ける。(文責：山田)

〔4〕その他の会議

（1）第三者委員会

日 時：令和3年7月27日（火）15:00～16:00 / 特養ひろた研修室

出席委員：3人

協議議題：令和2年度事業報告、各事業所事故報告、苦情受付、感染予防対策について

意見等：在宅部門の事故原因として利用者の不注意とあるが、認知症やADLの状況により、ある程度予見することが必要ではないかとアドバイスいただく。

施設部門の転倒事故件数が増加していることについて原因を聞かれる。転倒事故が多かった利用者は重度の認知症ながら行動範囲が広く、ソファをひっくり返す力もあり静止が難しい方であった。なるべく付き添うよう対応をしていたが、限界もあり対応に苦慮した。同一の利用者による事故とそれ以外の事故が解りにくく今後は集計や分析の仕方を検討してはどうかとアドバイスいただいた。アドバイスをもとに、集計や分析方法を検討し、再発防止に努める。（文責：山田）

（2）利用者相談会「いどばた会議」

新型コロナウイルス感染症予防のため中止

（3）家族の会

3年度も、新型コロナウイルス感染症予防のため、ほとんどの行事が中止となった。感染対策を行いながら総会のみ実施。2年度の報告や会計報告、役員改選等を行った。

○令和3年7月17日（土）10:00～12:00

総 会…21家族

面 談…20家族

※面談が実施できなかった家族については後日面談を実施



【家族総会】



【個別面談】

3. 在 宅 部 門

〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた

【令和3年度目標の評価】

【重点目標】 できるだけ住み慣れた家、地域で暮らし続けられる支援

新規の契約や委託が12件あったが、特養等施設入居（9人）や亡くなる等により、最終的に年度当初に比べ総人数15人減となってしまった。また、年間17件の入院があり、その内亡くなった方が5人いた。持病の悪化のためではあったが、家族の支援やサービスを利用しながらぎりぎりまで自宅での生活が続けられたのではないかと感じる。

要支援認定者が要介護認定者を大きく上回っている。馴染みのある地域で活躍されていた方が徐々に認定を受けつつあるが、サービスの利用を十分に理解して今以上弱らないためにと介護保険申請をして身体機能の維持・回復や認知機能低下予防に積極的に取り組んでいる。広田地区で包括支援センターの職員が予防の大切さの説明をしてくれたり、実態把握調査で定期的に訪問したりすることで、家での生活が困難になってから介護保険を使うという認識から早めの予防に考え方が変わってきたのではないかと感じる。

3年5月より小規模多機能型居宅介護事業所やまの里たまたまが開設し、認知症により、毎食の服薬管理等十分に支援することが難しかった独居高齢者を中心に支援ができるようになった。それにより認知症が進行しても自宅での生活が続けられている。

今後も、包括支援センターや各サービス事業所と連携をとりながら自宅での生活ができるだけ続けられる支援を行っていきたい。（文責：廣藤）

（1） 運営状況

【利用状況】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	32 (29)	27 (28)	25 (28)	27 (29)	24 (27)	25 (28)	23 (28)	22 (28)	22 (30)	19 (28)	19 (28)	20 (27)	23.7 (28.2)

※ 2年度月平均利用人数 33.1人 (24.1人)

() 要支援者

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実態把握	1	2	1	1	0	4	4	2	2	0	1	2	20

※ 実態把握…独居高齢者で生活に不安がある方を対象に訪問し継続して訪問の必要な方

【介護度別利用実人数】 令和4年3月31日現在 平均要介護度：2.0 (2年度：2.2) ()は2年度比 単位：人

	要支援			要介護					合計
	事業対象	1	2	1	2	3	4	5	
男性	1	2	2	8	3	0	0	0	16(-1)
女性	0	9	15	2	3	4	2	1	36(-8)

(2) 苦情受付

受付件数：0件

(3) 地域連絡会

(参加者) 砥部町保健師、砥部町国保診療所(医師、看護師)、砥部町地域包括支援センター職員、砥部社協訪問介護職員、特養ひろた生活相談員、やまの里たまたに介護支援専門員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、居宅介護支援専門員

(開催場所) ひろた交流センター研修室

(開催日時) 毎月 第4火曜日 13:30～

(協議事項) サービス担当者会議、ケース検討、各機関連絡事項、その他

〔2〕やまの里たまたに

【令和3年度目標の評価】

【重点目標】安心して在宅生活が継続できるための支援

3年5月に小規模多機能型居宅介護事業所を開設した。3年度目標であった最大登録20人は、職員雇用の難しさもあり12人にとどまった。また、コロナ禍で開設イベントや地域での行事が行えず、静かなスタートになったことは残念であった。

やまの里たまたにを知ってもらうためにと11月に開催した「たまたにカフェ」は、地域住民17人の参加があり、とても好評であった。定期開催を望む声が多かったが、その後のコロナウイルス感染再拡大により開催ができなかったことは残念でならない。元小学校という場所柄、事業所の存在を知っている方は多いと思うが、小規模多機能という事業の内容を十分に知ってもらっていないことから、引き続き情報発信を行っていきたい。

やまの里たまたにの一番の特徴は訪問の多さである。小規模多機能は広寿会で初めての事業であり、すべて手探りの状態で始まったが、特別養護老人ホームで培ってきた健康管理方法等をどのように在宅に落とし込むことができるのかを考えた。中でも、広寿会のサービスではこれまで支えることのできなかつた、自宅での時間を支援する訪問サービスを強化することにより、栄養・水分・服薬管理を行うことで、在宅であっても病状や栄養状態が安定するように努めた。また、食事の準備等の生活支援を一緒に行うことで、利用者のできる力を最大限に発揮することができれば、認知症であっても、自宅での生活が継続できる利用者が多いことが分かった。登録人数が徐々に増えたことで、利用者一人ひとりと向き合う時間を多く取るよう意識して対応できたこともケアを充実させることのできた要因と考える。

一方で、訪問サービスを希望しない利用者にとっては料金が高いとの声を聞くこともあり、そのような意見に対して、通い・泊りサービスにどのように価値を見出せるかが課題になってくると思われる。(文責：二宮)

(1) 運営状況

定員 12 人 (1 日最大利用人数 通い 6 人 泊り 6 人)

【登録人数】 平均年齢 91.5 歳 平均介護度 2.5 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護者		6	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	9
要支援者		0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
稼働率 (%)		50.0	58.3	75.0	75.0	75.0	75.0	83.3	91.6	100	100	100	80.2

※月平均は 11 カ月で計算

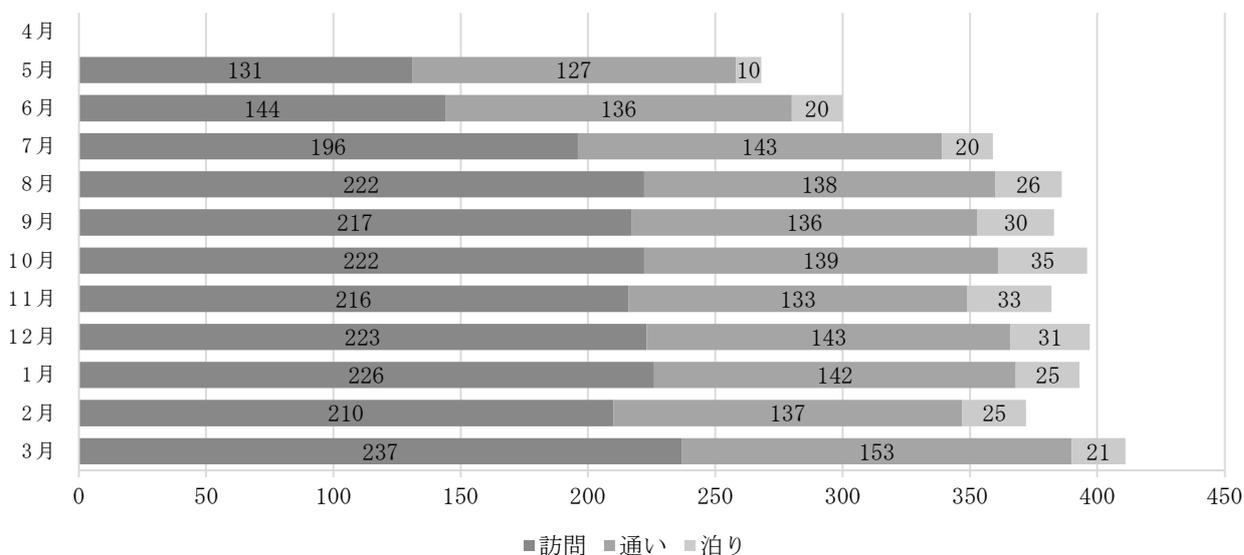
【介護度別利用実人数】 令和 4 年 3 月 31 日現在 単位：人

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
利用実人数	2	1	2	3	2	1	1	12

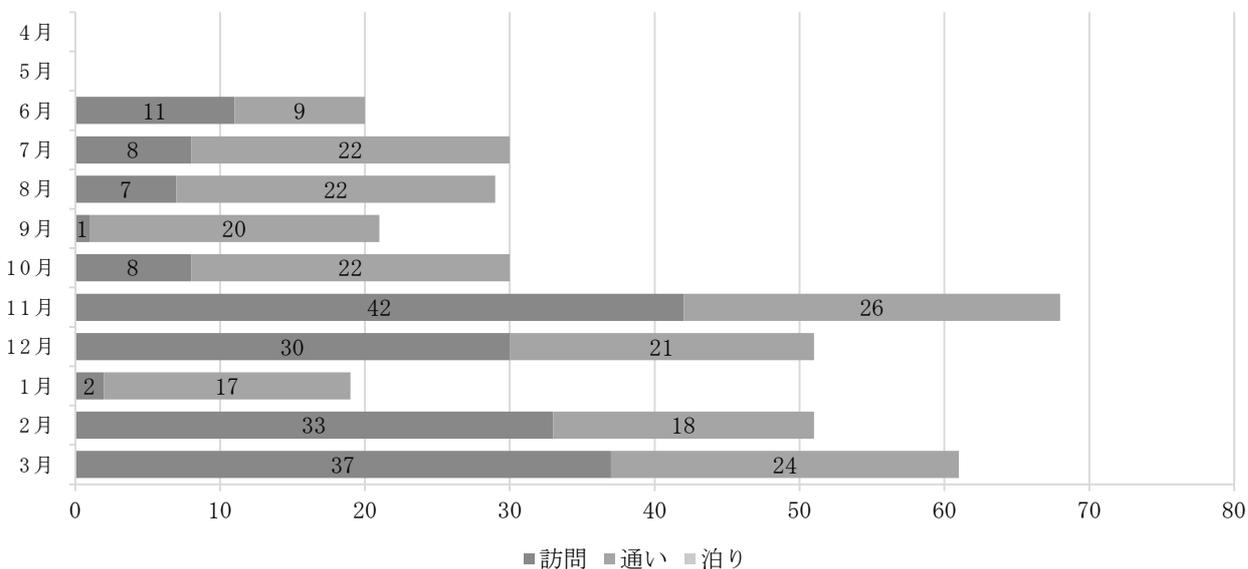
※平均介護度は要支援を除く

【利用延人数】

【要介護】



【要支援】



(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画に基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

外出 食事・おやつ作り・地域行事等

《振り返りと課題》

コロナ禍であっても、利用者が四季折々の風景に触れ、地域の方々との交流ができるよう支援してきた。また食事・おやつ作りを利用者と一緒に行い、楽しみながら残存機能の維持につなげられるように関わった。感染再拡大により途中から職員だけで調理するよう変更したが、食は利用者の一番の楽しみであり、調理中の香りや雰囲気の良い中で食べる食事は利用者も楽しんでもらったのではないかとと思われる。

地域の方に、やまの里たまたまにを知っていただくために開催した「たまたまにカフェ」は大盛況であったが、コロナ感染再拡大により定期的な開催には至っていない。地域に開かれた事業所として、コロナ感染症が落ち着き次第定期的な開催を行いたい。(文責：二宮)

《行事写真》

○外出



【散策・長曾池】



【散策・銚子ダム】



【紫陽花鑑賞・高市】



【芋掘り・仙波】

○食事・おやつ作り



【おやつ作り】



【誕生日会】



【焼き肉】

○百寿のお祝い



○米寿のお祝い



○地方祭



○たまたまにカフェ



(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・3件

《危険度1》 …… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 3件

事故報告書・・・5件

《危険度2》 …… 処置は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要 4件

《危険度3》 …… 簡単な処置や治療を要した（消毒・ガーゼ保護、湿布） 1件

②内容

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
歩行中のふらつき	2
L字ベッド柵のロック忘れ	1

事故報告書内容別発生件数	
ベッドからの転落	2
内出血	1
転倒	1
服薬ミス	1

③原因

内容	件数	内容	件数
職員の確認不足・ケアミス	4	介助中の圧迫	1
環境整備不良	3		

④分析

独歩が可能であっても下肢筋力低下等により歩行不安定な利用者が多く、移動の際は、職員が付き添うことで大きな事故には至っていない。服薬ミスは、職員の不注意から眠前薬を多く服用してしまった事故であり、再発防止策として日勤職員が準備し、夜勤職員が確認するダブルチェックを徹底した。ベッドからの転倒等、職員が見守りできない場所では転倒しにくいまたは転倒しても怪我のないよう、手すりを設置する等の環境整備を行い、記録システムを活用してケア方法を共有している。また事故が発生した場合は、オンラインの医療相談（ドクターメイト）を活用し、経過観察の方法や受診の必要性を検討し対応している。（文責：二宮）

(4) 運営推進会議

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、やまの里たまたに職員、地域住民、他法人の管理者
砥部町職員、砥部町地域包括支援センター職員

(開催日) 2か月に1回

(主な協議事項) 運営状況報告 活動状況報告 事故報告 意見交換 サービス評価

開催日	協議事項	出席者
R03.06.25	運営状況の報告 活動状況の報告 意見交換	12人
08.	新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催	
11.09	運営状況の報告 活動状況の報告 サービス評価について説明	10人
12.23	運営状況の報告 活動状況の報告 サービス評価の集計結果報告	11人
R04.03.	新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催	

《振り返りと課題》

日頃の事業所の取り組みを家族や外部の方に報告し、意見交換をする中で「元気に過ごされている利用者が多く、サービスを柔軟に組み合わせた個別対応ができています」、「利用者の家族から急なサービスの変更も対応してもらえるので気軽に相談がしやすく安心できると聞いた」、「コロナ禍だが感染予防に気をつけて外出等の取り組みができています」と評価していただいた。

一方で、年に1回実施するサービス評価では「民生委員や協力員をもっと巻き込んだ取り組みを行ってほしい」、「地域連絡会等の情報を個人情報に配慮し共有できれば良い」、「災害が発生した場合、どのようになるか想像がつかないので不安だ」等、自分たちでは気づきにくい意見を聞き、この意見を参考に利用者家族等にも避難訓練に参加していただいた。また訪問の際に地域の協力員等との情報交換を行う等、地域とのつながりを意識するよう努めた。

4年度も民生委員や協力員と連携し、利用者が住み慣れた自宅で、安全に安心して生活ができる体制を継続し、地域との関係をより深めるために、地域行事等にも利用者と一緒に積極的に参加していきたい。災害時の対応訓練等については、運営推進会議にあわせて避難訓練を計画する等、協力を得やすい工夫もしたい。(文責：門田)



【第1回運営推進会議】

(5) 苦情受付

受付件数：0件

(6) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、管理栄養士、やまの里たまたに職員

(主な協議事項) 各部署より連絡・報告 ケース検討 実績報告 事故検討 身体拘束の取り組み 感染予防対策

開催日	協議事項
R03.05.18	事故分析・検討 集客状況の報告
06.22	新規登録者の情報提供 運営推進会議の議題検討
07.20	災害時の避難方法検討
08.26	新規登録者の獲得状況 物品購入時の確認方法説明
09.29	事故分析・検討 新規算定開始する加算の説明 実費費用の説明 物品の管理方法説明
10.27	地域支援事業の内容検討 事業所サービス評価の説明
11.23	事業者サービス評価実施
12.23	新規登録者の情報提供
R04.01.27	事故分析・検討 リモート会議の提案
02.	新型コロナウイルス感染予防のため中止
03.	新型コロナウイルス感染予防のため中止

(7) 業務改善委員会

(参加者) やまの里たまたに職員

(主な協議事項) サービス内容、環境整備、記録システムの検討

開催日	協議項目
R03. 05. 12	利用者の夕食提供方法検討 記録入力方法検討
06. 08	新規利用者の情報提供 担当利用者の割り振り 新規入職者の勤務調整
07. 14	新規利用者の情報提供 利用者の服薬支援方法検討 感染予防対策の検討
08. 19	感染予防対策の検討
09. 14	新規利用者の情報提供 レクリエーション内容の検討 記録入力の注意点
10. 14	新規利用者の情報提供 環境整備の検討 記録入力の検討
11. 15	新規利用者の情報提供 環境整備の検討 サービス評価内容の改善策の検討
12. 16	新規利用者の情報提供 環境整備の検討
R04. 01. 17	新規利用者の支援内容検討 休憩時間の取得方法の検討 書類業務の処理時間検討
02.	積雪のため中止
03. 11	サービス評価(外部評価・総括評価)の報告 入院者の状況報告

《振り返りと課題》

適正なサービスの提供業務の効率化を図ることを目的として開催している。また、新規開設事業のため業務構築から検討した。

職員のスキルによって通い・泊り・訪問の各サービス内容に差が生じないように、限られた時間内で同等のサービス提供ができるよう協議し、支援内容の統一化や質の高いサービス提供に努めた。今後も継続して実施していきたい。(文責：門田)

〔3〕砥部町デイサービスセンター(砥部町受託事業)

【令和3年度目標の評価】

【重点目標】楽しみながら身体機能の維持・改善ができるサービス提供

利用人数の減少により、5月から定員数を20人に変更した。一人でも多くの方に利用してもらえるよう、2年度より事業の実施地域を内子町大瀬地区にまで広げ、ほぼ毎月居宅介護支援事業所を訪問し、情報発信に努めた。手作りのチラシでデイサービスの日々の取り組みをPRし、訪問先の介護支援専門員から「楽しそうな取り組みをされていますね。利用者の笑顔がいいですね」と好評で、結果13人の新規利用者を迎えることができた。サービス利用に抵抗がある方には「美味しいかきもちの作り方を教えてほしい」とお願ひし、体験利用を通して新規利用につながったケースもあった。しかしながら、小規模多機能への移行や施設入居等で23人の利用終了があり、介護の利用延人数は2年度と比較すると655人減少した。

デイサービスの利用者は、独居や高齢世帯の方が多い。そういった方たちにも、定期的にサービスを利用してもらえるよう努力した。利用を忘れがちの方には、事前に連絡して準備をお願いしたり、準備を手伝ったりしている。また、時間を要する場合は時間をずらして再度迎えに行くことも多かった。利用者の状況に応じて可能な限り対応することで、休むことなく利用できる利用者が増

えた。また、認知機能が低下している独居の方については、ガスやストーブ等の火元や消灯、施錠の確認をする等、離れて暮らす家族に代わって必要な支援を行い、利用者と家族が安心してサービスを利用できるよう支援した。

3年度は、新しい記録システムを導入し利用者の状態把握に努めた。日々の経過観察と状態の聞き取りを行い、異常があれば、担当介護支援専門員と家族に状態を報告し受診を勧める等の対応をした。受診の際は利用時のバイタル数値や経過記録を印刷して家族に渡し、主治医につなぐことで、重症化する前に治療ができたり、服薬の調整につながったりした。それにより、担当介護支援専門員や家族から「丁寧な観察と的確な対応をしてもらってありがたい」というお褒めの言葉をいただいた。

在宅生活を継続するために重要な身体機能の維持、向上については、機能訓練指導員の指導のもと個々にプログラムを組みリハビリを行った。始めは否定的だった利用者も、継続して実践することにより、意欲的な発言がみられるようになった。さらに、利用者の希望を取り入れて屋外歩行訓練を兼ねた外出も積極的に行い、楽しみを持ってもらった。また、利用者と協力して新たなレクリエーションの物品を作る等、少しでもマンネリ化が予防できるようにも努めた。

広田地域は過疎化が進み、さらに新型コロナによって地域交流の機会が減っている。「近所に家はあるけど住んでおらず、話し相手がない」、「地域の行事がなくなり集まる機会がなくなった」、「何もすることがなく寝るぎりしよる」等、利用者から不安ごとの相談も多い。サービスを利用することによって、人と関わり、活動の場を拡げることができる。3年度に利用を始めた方からは「もっと早くから利用したらよかった。ここに来るのが楽しみ」という声をいただき、デイサービスの必要性を強く感じた。

ここ数か月は、実人数で要介護者より要支援者のほうが多くなっている。身体状態が悪くなってからではなく、早めにサービスを利用することで、現状が維持でき自宅での生活を続けていきたいという予防的な考えを持つ利用者が増えている。また、他者と交流することで認知機能の低下を予防したいという利用者も増えている。今後も、利用者がいきいきと楽しく活動できるような工夫を行い、その方らしく心身ともに健やかに楽しく在宅生活が送れるよう支援していきたい。

(文責：宇都宮)

(1) 運営状況

定員 20 人 (R3 年 4 月は 25 人) 稼働率・・・61.9% (介護+総合事業)

【通所介護】	平均年齢 86.5 歳		平均要介護度 1.5											単位：人
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用実人数	28	23	22	25	22	23	21	17	18	13	17	16	245	
利用延人数	276	200	212	199	219	180	169	183	184	139	146	167	2,273	

※ 2年度延利用人数 2,843人 平均年齢 87.6歳 平均要介護度 1.7

【総合事業】	平均年齢 86.0 歳												単位：人
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	18	17	15	16	14	15	15	15	16	15	16	18	190
利用延人数	102	97	77	72	64	76	66	78	90	83	82	117	1,005

※ 2年度延利用人数 1,090人 平均年齢 87.5歳

【介護度別利用実人数】 令和4年3月31日現在

単位：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用実人数	1	7	10	3	6	5	2	0	34

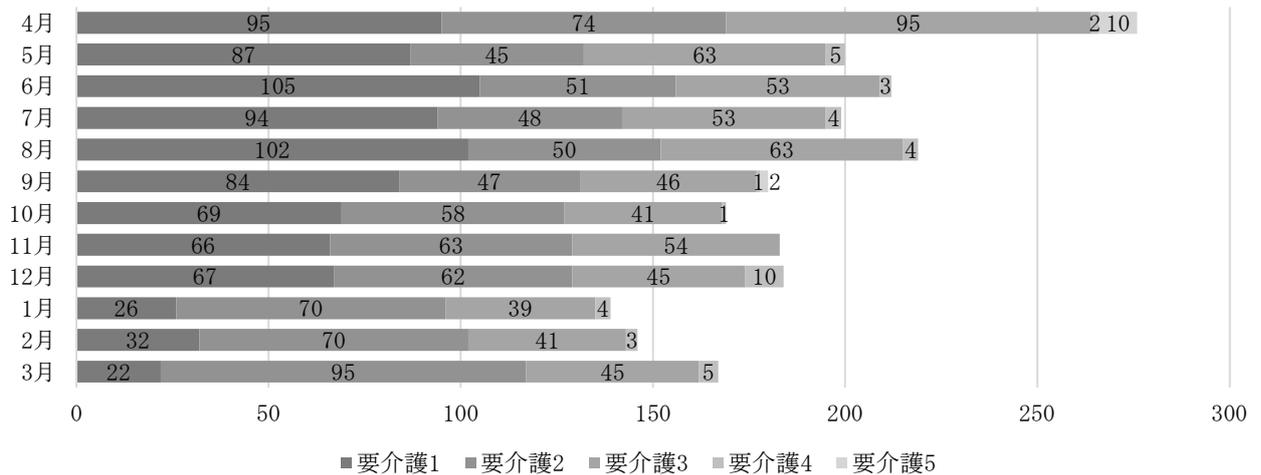
【介護度別利用延人数】

単位：人

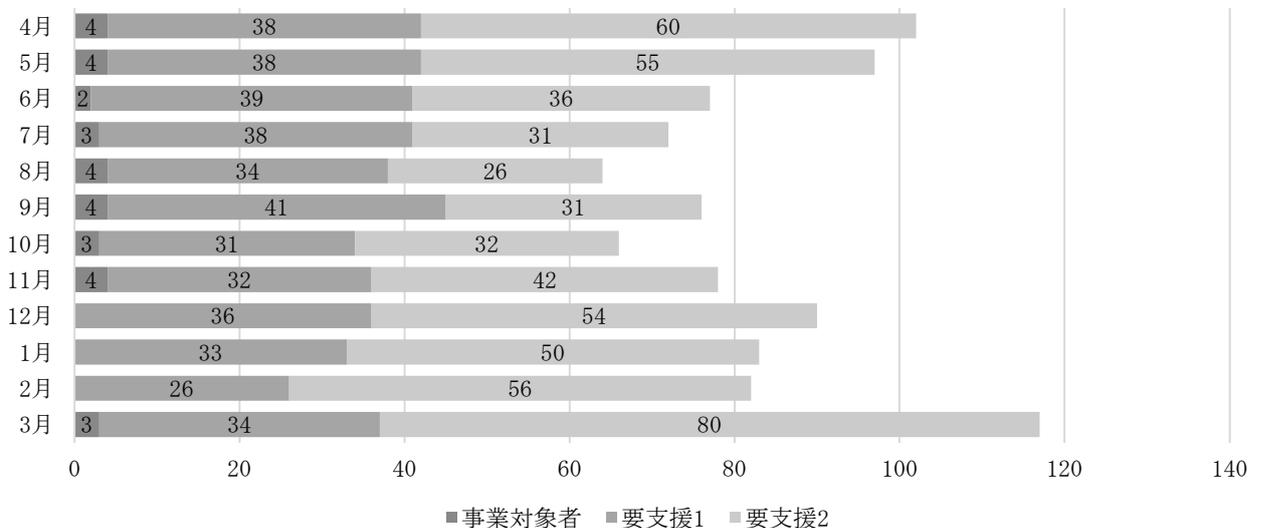
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均人数
砥部町	304	227	223	215	226	204	186	202	220	172	176	223	2,578	214.8
内子町	74	70	66	56	57	52	49	59	54	50	52	61	700	58.3
合計	378	297	289	271	283	256	235	261	274	222	228	284	3,278	273.1
稼働率 (%)	68.7	70.7	65.6	61.5	64.3	58.1	55.9	59.3	62.2	55.5	57.0	61.7		61.7

※ 年間営業日数 259日

【要介護】



【要支援】



(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

食事作り・おやつ作り 4回/月程度

誕生会 毎月

季節行事

お花見、避難訓練、紫陽花鑑賞、手打ちうどん作り、敬老会、三事業所交流運動会、紅葉鑑賞、こんにゃく作り、クリスマス会、忘年会、もちつき、節分、デザートバイキング、梅花鑑賞、かきもち作り

《振り返りと課題》

3年度も活動に制限がある中、感染予防を徹底したうえで、利用者の希望に沿った行事企画に努めた。「利用者の笑顔のため」職員一同、同じ思いで実施することで、多くの利用者に喜んでもらうことができた。下肢筋力向上の目的で、うどんの生地を利用者、職員がともに汗をかいて踏み、生き生きと利用者と一緒に触れ合うことができ、楽しい思い出の1ページとなった。食を通じて心も身体も満たされて、意欲向上につなげることができるよう、主に食事やおやつ作りを実施した。

利用者の多くは、認知症や手指の拘縮等の持病を持たれている。利用者に応じて残存機能を生かしたりリハビリの提供ができるよう、新たに7種類のリハビリグッズ製作に力を入れた。手指の細やかな運動や認知能力を狙いとして、また認知機能低下等の予防ができるよう個々に応じて提供した。認知症のある利用者に提供したところ、始めはサポートが必要であったが、習慣化することで手先の動きもスムーズになり、色の判別もはっきりと理解できるようになっていった。さらに、理解できることで自信が付き、笑顔も増えていった。

4年度は残存機能、ADLの維持・向上を目指し、本人と家族を心身両面サポートしていきたい。

(文責：白石)

《行事写真》



【手打ちうどん】



【梅花観賞：砥部町宮内地区】



【もちつき】



【紅葉観賞：旧小田町大平地区】



【こんにゃく作り】



【3事業所交流運動会】

(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・13件

《危険度0》	… 事故を未然に防ぐことができた	4件
《危険度1》	… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった	9件

事故報告書・・・6件

《危険度2》	… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要	5件
《危険度3》	… 簡単な処置や治療を要した（消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用）	1件
《危険度4》	… 濃厚な治療を要した（骨折・縫合・入院等）	0件

②内容

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
床に座られている	4
移動時、身体がふらつく	2
利用日変更確認不足	2
レクプレイ直後、座り損ねそうになる	1
歯ブラシにハンドソープをつける	1
コップにハンドソープを入れる	1
迎え時、鍋焦がし寸前	1
玄関から出て行こうとされる	1

事故報告書内容別発生件数	
転倒	3
所在不明	1
爪切り中の表皮剥離	1
レクプレイ直後、勢い余って座り損ねる	1

③原因

内容	件数	内容	件数
利用者の体調不良	6	確認不足	2
見守り不十分	4	環境・設備	2
行動予測不十分	4	職員の不注意	1

④件数の推移

29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
23件	33件	22件	16件	19件

⑤分析

3年度初め、同日に2件の転倒事故が発生した。2件とも職員がもう一步踏み込んで付き添っていれば防げた事故であった。すぐにカンファレンスを開催し、どの段階までの見守り及び付き添いが必要なのか、しっかりと話し合い、統一したケアを行うよう周知徹底し、再発防止に努めた。

内容で気になる事例は、提供終了時間前に、利用者が職員に何も告げずに帰宅していたというこ

とがあった。幸い同一建物内の支援ハウス入居者であったため大事には至らなかったが、ホール内にいた職員は、それぞれの業務に集中して帰宅したことに気付いていなかった。提供時間中は常に職員間で声を掛け合いながら連携を図っていく必要性を再認識させられた。

また、入浴中浴槽から上がる際に、ふらついて身体のバランスを崩したケースが1件あったが、本人も手すりを掴み、職員もすぐに支えたため大事には至らなかった。特に、入浴中は少しの気の緩みが大きな事故になるリスクが高いため、どの利用者も浴槽から上がる際は、脱衣室まで必ず付き添うように話し合った。

今後も、些細なケースも事故報告書を作成し、情報の共有・交換・周知、及び事故の予測を行い、再発防止に努めたい。(文責：宇都宮)

(4) 苦情受付

苦情受付件数：0件

(5) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、管理栄養士、砥部町デイサービス職員、居宅介護支援専門員

(主な協議事項) ケース・業務検討、各部署・委員会より連絡、新型コロナウイルス感染予防

開催日	協議事項
R03.04.28	新規事業所開設及び人事異動報告
05.28	新記録システム入力方法検討
06.23	事業所合同行事・レクリエーション開催方法検討
07.26	申し送り事項、記録入力の活用方法検討
08.26	感染防止対策再確認
09.20	新規利用者状態報告
10.19	特養改修工事に伴う業務内容検討
11.29	利用者の現状報告
12.28	年末年始の感染防止対策連絡
R04.01.26	4年度年間行事検討
02.	書面にて回覧
03.31	調理レクリエーション開催方法

〔4〕砥部町地域支援事業（砥部町受託事業）

(1) 転倒予防教室

新型コロナウイルス感染防止のため開催中止。

(2) 地域住民グループ支援事業

3年度は「いきいき健康教室」とネーミングして、1/17・2/14の2回開催予定としていたが、愛媛県下のコロナ感染拡大に伴い、砥部町より開催を見合わせるよう連絡もあり、やむを得ず

中止した。依頼していた講師から「開催の時期が来たら、いつでも気軽に声を掛けてほしい」とありがたい言葉をいただいている。感染を恐れて外出を自粛する等人間関係が希薄になりつつある今だからこそ、4年度は砥部町と相談しながら是非とも開催したいと思っている。

(文責：宇都宮)

(3) いきいき見守り配食サービス

(目的)65 歳以上の独居高齢者等で調理が困難な希望者に、バランスのとれた食事を提供するとともに定期的な安否確認を行う。

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数	5	6	6	4	5	5	4	4	4	4	4	5	56/4.6
延利用回数	51	53	56	32	44	26	27	30	29	27	31	53	459/38.2

《評価》

本人や家族の希望をもとに、町担当者とのカンファレンスを経て提供を行っている。

3年度は新規利用者が3人いたが、施設入居や退院後に子ども宅へ転居する等により3人減少し、利用者の移動は多かった。配達時に体調等聞き取りすることにより、早期受診対応ができた。自宅での様子の確認をしたりすることができた。また、バランスのとれた食事を提供することにより、「体調が良くなったように感じる」や「一人では似たような物しか食べないので助かっている」等喜ばれている。

広田地区では独居生活の方が増えており、安否確認を兼ねた配食サービスを提供することで、安心して在宅で生活が続けられるように支援を継続していきたい。(文責：廣藤)

〔5〕支援ハウス（砥部町受託事業）

(1) 運営状況

定員 10 人（月末時点での人数）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居人数	8	8	8	7	7	5	5	5	6	6	6	8

※ 入居人数は月末入居人数

(2) 行事報告

砥部町デイサービスセンターや特養ひろたの催し物に随時参加

4. 会 議 等

〔1〕 運営委員会

事業運営、各事業所の課題検討、実績報告等話し合いを行う。

(参加者) 副主任、主任、所長、部長、施設長

(開催日) 第1金曜 14:00～

(主な協議事項) 各部署からの報告・連絡 アクションプランの実施状況の報告・評価

開催日	協議事項等
R03.04.07	介護記録システム導入現状報告 小規模多機能開設に向けて(内覧会) 人事等 施設内研修 eラーニングシステム導入報告
05.07	新型コロナウイルス感染対策(ワクチン接種) 小規模多機能開設 人事等 介護記録システム導入現状報告 職員配置 就業規則変更等
06.04	新型コロナウイルス感染対策(緩和検討) 小規模多機能避難計画検討 人事等
07.02	新型コロナウイルス感染対策(緩和検討) 特養大規模改修工事に向けて 人事等
08.06	新型コロナウイルス感染対策(対応検討) 第三者委員会報告 職員の接遇 人事等 福祉避難所(特養)報告 特養大規模改修工事に向けて
09.03	食事異物混入時の対応 空調設備更新工事開始 物品購入時の確認方法 人事等
10.07	新型コロナウイルス感染予防研修 特定処遇改善一時金支給 上期の実績報告 人事等 特養大規模改修 外国人技能実習生導入予定
11.05	インフルエンザ予防接種 介護記録システム現状報告 調整会議 人事等
12.03	特養大規模改修 特養介護保険事故報告 介護記録システム現状報告 たまたにカフェ 人事等
R04.01.07	新型コロナウイルスワクチン接種(3回目) 特養大規模改修 技能実習生経過報告 人事等
02.04	システム導入現状報告 聖カタリナ大学実習生受入 新型コロナウイルス感染対策 人事等
03.04	特養大規模改修終了 年度末棚卸実施 人事等

〔2〕 職員会

全体運営に関する職員間の情報共有を行う。

(参加者) 全職員

(開催日) 3か月に1回 第1週目 17:30～

(主な協議事項) 行事予定の連絡 各部署からの連絡事項

開催日	参加人数	協議事項等
R03.04.01	23	新人職員入職 人事異動 事業所ゴミの分別方法変更 新記録システムの導入 労働者の代表選任
07.01	27	新理事長紹介 新システム運用状況 大規模改修 給与支給日の変更 監事監査報告書 新型コロナウイルス感染対策
10.01	24	辞令交付 物品購入方法 安全運転注意喚起 新型コロナウイルス感染予防緩和 大規模改修

〔3〕広報委員会

広報紙「広寿」の編集発行を中心に、法人及び事業所の情報発信に努めていく。

(参加者) 各部署で選定された職員

《振り返りと課題》

3年度は、第43号(令和3年8月)、第44号(令和4年1月)を発行し、施設利用者や家族、地域住民、そして近隣施設等関係機関へ配付した。



【広寿第43号】

【広寿第44号】

ブログに関してはほぼ更新できず反省として残る。やまの里たまたにでも新たにブログを作成し、活動内容等お知らせできる体制を作った。

特養ひろたでは面会制限中オンライン面会を提供していたが、家族も高齢であり利用頻度は2件程度であった。砥部町デイサービスセンター、やまの里たまたにでは広報紙等を独自に作成して利用者や居宅介護支援事業所へ配布し、活動の報告等を行った。

3年度中にホームページの変更を検討していたが実施できなかった。4年度中には新たに作成をして、利用者家族や各関係機関等に広寿会の取り組み等お知らせできるような体制づくりをしていきたいと考えている。(文責：廣藤)

ホームページやブログを活用した情報発信

日常の様子をタイムリーに伝える手段として有効活用を努め、情報発信をしていく。

- 広寿会ホームページ
<http://www.koujukai-hirota.com/>
- ブログ 「ほのぼの♪ひろた日記」
「やまの里たまたに」



ブログ「ほのぼの♪ひろた日記」

〔4〕防災委員会

防災に関する情報共有や研修を通じ、有事の際の対応や予防策を計画推進する。

(参加者) 防火管理者、生活相談員、各副主任及び主任、事業所管理者、所長、部長、施設長

① 防災訓練等の実施状況

年月日	訓練内容
R03. 10. 06	防災訓練① (特養ひろた／砥部町高齢者生活福祉センター) ・ 通報訓練、避難訓練、初期消火訓練を実施 特養では、新人職員向けにレスキューシート使用訓練及び消防設備概要説明をあわせて実施
11. 18	防災訓練② (やまの里たまたに) ・ 通報訓練、避難訓練、初期消火訓練を実施 事業所開設して初めての防災訓練。利用者の家族も消火訓練に参加
11. 28	砥部町総合防災訓練 ・ 福祉避難所 (特養ひろた) として避難者の移送訓練に参加
12. 17	シェイクアウトえひめ (特養ひろた／砥部町デイサービスセンター) ・ 地震発生時の安全確保行動及び安否確認や被害状況把握の模擬訓練実施

R04. 03. 18	防災訓練③（特養ひろた／砥部町高齢者生活福祉センター） ・通報訓練、避難訓練、初期消火訓練を実施 夜間の火災発生を想定し、夜勤や宿直に従事する職員を中心に初動対応や機器操作を訓練
-------------	---

《振り返りと課題》

火災を想定した自主防災訓練に関しては、職員の大半が一連の動きを理解しており、概ね適正に行動することができている。後は、万が一にも本当の火災が発生したとき、炎や煙に包まれてスプリンクラーの作動や火災報知設備の鳴動で利用者の不安や不穏状態も高まることが予想される中、どれだけ落ち着いて迅速に訓練どおりの行動ができるかだろう。また、5月に開設したやまの里たまたまにの防災訓練に利用者家族も参加してできたことは大変有意義であった。地域福祉拠点の活動の一つとして、今後さらにこのような取り組みを拡大できるよう努めたい。

一方、自然災害への備えについては、具体的な取り組みができないままに終わった。停電や断水、そして道路の寸断等、その怖さは十分に理解しながら具体的な対応策を見出せていない。多くの職員が峠を越えて日々1時間弱の自動車通勤する事業所の立地、そして厳しい予算運営の中での対策推進費用捻出等、課題を挙げればきりがない中での計画推進は非常に難しい。

さらに、近年、事業所運営の大きな脅威となった新型コロナウイルス感染症への対応策も整備、強化していかなければならない。

大規模自然災害にしても感染症にしてもこちらの都合等関係なく、突然やってくる。そのとき、自分たちがどれだけ本気になって日々、備えをしてきたかで被害の大きさは変わってくると思う。このことを忘れず、しっかりと準備を進めたい。（文責：福岡）

〔5〕給食委員会

「食＝命」をテーマに、より良い食の提供を施設職員、厨房委託業者職員とともに取り組む。

（参加者）委託業者、施設長、部長、施設部主任、砥部町デイサービスセンター生活相談員
やまの里たまたまに所長、管理栄養士

（開催）毎月1回

（主な協議事項）利用者の食事摂取状況や料理の味付け、献立内容、食事形態、感染対策等

《振り返りと課題》

3年度は新規事業所開設のため、食事の提供方法や運搬方法等の確認をした。また、大規模改修の際に厨房内の工事も実施したため、施設厨房外での調理・盛り付けを実施することとなり、委託業者には衛生管理や感染対策面で負担をかけることとなった。そのような中でも感染対策を考慮しながら祝い膳や行事食に協力いただき、多くのイベントが実施できた。今後も感染対策に配慮しながら委託事業者と連携し利用者に喜ばれる食事提供をしていきたい。（文責：松本）



【やまの里たまたまにでの配達や配膳確認作業】

行事食

【施設・在宅部門】

月	日	行事	献立内容
04	02	お花見弁当	ちらし寿司・鶏の唐揚げ（あおさ）・春野菜の天ぷら・わらびの玉子とじ・春キャベツのシュウマイ・スナッペンどう・赤だし・いちご大福
05	25	祝い膳～愛媛の郷土料理～	たこ飯・ざんぎ・ふくめん・スナッペンどうのごま和え・五色そうめん・しばもち
06	10	手打ちうどん	うどん・おにぎり・さつま芋の天ぷら・野菜炒め・いちごムース
07	27	祝い膳～沖縄の郷土料理～	タコライス・ラフテー・ゴーヤチャンプルー・もずく・ちんすこう・アーサー汁
08	31	屋台	おにぎり・いなり寿司・たこやき・フランクフルト・焼き鳥・焼きそば・チョコバナナ
09	30	祝 103 歳の祝い膳	栗ちらし寿司・手作りハンバーグ・さつま芋の天ぷら・さんまのかばやき・キャベツのしらす和え・茶そば汁・かぼちゃモンブランプリン
10	25	祝い膳～愛知の郷土料理～	天むす・味噌かつ・どて煮・煮酢和え・五平もち・冬瓜汁・鬼まんじゅう
11	11	いもたき	いもたき・胡瓜とツナの青しそ和え・キウイフルーツ
12	14	祝 104 歳のデザートバイキング	フルーツケーキ・ドーナツ・ガトーショコラ・スノーボール・スイートポテト・ごまプリン・チーズケーキ・いちごムース・栗パウンドケーキ・抹茶生クリーム大福・栗生クリーム大福・プリン・芋ようかん・みたらし団子・生チョコタルト・おにぎり・えびのフリッター・和え物
	28	もちバイキング	お雑煮・きな粉もち・あんこもち・豚肉の野菜巻き・サラダ・いちご
01	01	お節料理	巻き寿司・お刺身・三点盛り・酢の物・煮しめ・岩石玉子・すまし汁・栗きんとん
02	21	祝い膳～東北地方の郷土料理～	きりたんぼ鍋・ミニ海鮮丼・いか人参・ずんだもち
03	11	デザートバイキング（砥部デイ）	プリン・紅茶のパウンドケーキ・ガトーショコラ・チーズケーキ・生クリーム大福・桜もち
03	22	祝い膳	にぎり寿司・春野菜の天ぷら・新玉ねぎのガーリックバターステーキ・菜の花の白和え・すまし汁・いちご大福

《振り返りと課題》

2 年度のデザートバイキングが好評であったため、3 年度は施設部門と在宅部門と別けて 2 回実施した。施設部門では 104 歳を迎える施設最高齢者の誕生日にあわせて実施し、利用者・職員みんなで祝うことができた。どちらも、「おいしかった」「またやってやな」と喜ばれていた。また、8 月に屋台を実施した際には事前に利用者や職員に食べたい料理に投票してもらい、人気の集まったメニューを感染対策に注意し職員が手作りして提供した。職員が作っている姿を見て、利用者は楽しまれた。



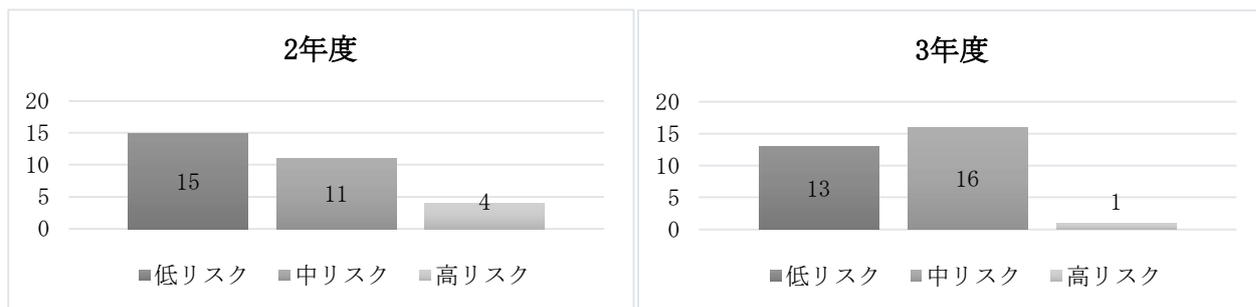
【デザートバイキング】

新たに日本全国の郷土料理を取り入れた祝い膳の提供も行った。県外旅行へ行った気分を味わったり、興味をもっていただいたりした。郷土料理を通じて利用者との会話も弾み、とても良い機会となった。4 年度も食事を通して楽しみを持ってもらえるよう継続して郷土料理を取り入れた祝い膳の提供を計画している。（文責：松本）



【愛媛県郷土料理ふくめん】

①栄養ケアマネジメント評価



高リスク者の人数が減少した理由として、入居前からあった褥瘡が治癒したことや食事摂取量の増加、経腸栄養剤（エンシュア）の使用により低アルブミン血症の改善がみられたことが大きく関係している。一方で中リスク者の人数が増えた理由として、認知症の進行により摂食嚥下機能の低下がみられる利用者が増えているからだと考えられる。

今後も最期まで口から食べる楽しみを得られるよう歯科医師の指示のもと、練り梅で味覚刺激を行う等、摂食嚥下機能の維持、改善を多職種で協力して支援していきたい。また、食事の姿勢、食べ方、噎せ、摂取量、時間等観察を行い、一人ひとりにあった食事方法も検討、実施していきたい。

（文責：高尾）

②経口維持評価

2年度	3年度
6人	5人

誤嚥が認められる利用者が安全に食事摂取できるよう取り組んでいる。3年度は1人退居され、1人は新規利用者が追加、1人は口腔機能の改善が認められ解除となり5人になった。歯科医師の提案内容をケアプランに組み込み、食前の口腔リハビリ等を継続して実施し口腔機能改善に努めている。また、記録システムを活用して、噎せや溜め込みの状態等の経過を情報共有し、それをもとにダブルチェックや会議等で検討をして口腔機能改善に取り組んでいる。

経口維持加算項目に該当するまでにはいかないが、身体機能や認知機能の低下により口腔機能が低下し始めている利用者も増えている。そのような利用者が、安全に食事ができる環境を今後も歯科医師や歯科衛生士と連携し、多職種で協力をして作っていききたい。（文責：松本）

指導内容	ねらい
車椅子を揺らし、加速度を付けて代謝を上昇させる	口腔機能の向上
食前や食中に練り梅をすすめる	味覚刺激
食前に山椒をすすめる	味覚の回復
1品ずつ提供しゆっくり食事を食べてもらう	噎せ予防
食前にメルソ（乳酸菌生産物質）で舌のマッサージを行う	噎せ予防と唾液分泌の促進

③経口移行評価

2年度から実施していた胃瘻を造設している利用者1人の経口摂取への移行については、定期的に歯科医師に肺音及び嚥下状態の確認や助言をいただきながらすすめた。それをもとに、記録システムを活用し情報共有を行い、多職種連携して対応に取り組んだ。利用者が自分で食べやす

く、噎せにくい姿勢の確保のため、食事中のテーブルの高さ調整等の環境整備を行い、食前に噎せ予防の運動を行うことで、約半年をかけて完全経口摂取へ移行することができた。自分で食事ができることにより利用者の表情等も良くなり、家族から「食事が食べられるようになるとは思わなかった。とてもうれしく思う」とありがたい言葉をいただいた。

経管栄養となった利用者の家族は、その選択が良かったのかと葛藤が続くケースが多い。そのような方たちにも「口から食べる喜びや楽しみ」を感じていただき、利用者、家族、そして職員も後悔のないケアができるよう、経口摂取の取り組みを継続していきたい。(文責：松本)

5. 研 修 等

【1】施設内研修委員会

(参加者) 各事業所の代表者

(開催日) 毎月第1金曜日

(目的) 年間研修計画に沿った研修を立案し職員のスキルアップに努める。

開催月	研修名
R03.04	倫理及び法令遵守
05	※新型コロナウイルス感染予防のため中止
06	※新型コロナウイルス感染予防のため中止
07	食中毒 新型コロナウイルス感染予防
08	身体拘束・虐待 セクハラ・パワハラ 事故防止
09	ターミナルケア 接遇
10	認知症ケア
11	排泄ケア
12	摂食ケア
R04.01	ターミナルケア
02	事故防止・リスクマネジメント (事例検討)
03	褥瘡ケア

《振り返りと課題》

年間計画に沿って事前に委員会で研修内容を検討している。

3年度は新型コロナウイルス感染予防のため、研修動画をWEB上で配信し必要な研修を実施した。各職員が業務時間内に視聴することができ、研修にかかる時間の効率化を図ることができた。さらに、メールでレポートを提出してもらうことで研修の参加状況や個々の研修内容に対する理解状況を把握した。このレポートをもとに、4年度の研修は職員がスキルアップできる内容にできるよう委員会で検討していきたい。また、副主任以上は月に1回 Trust Bording のシステムを活用した社外コーチング・WEB研修の受講を計画している。(文責：門田)



【研修動画視聴の様子】



社会福祉法人 広寿会

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町裕津 405 番地

電話: 089-989-2155 FAX: 089-989-5151

H P: <http://www.koujukai-hirota.com>

M a i l: info@koujukai-hirota.com

ブログ: <https://ameblo.jp/koujukai-hirota/>



特別養護老人ホームひろた 短期入所生活介護事業所ひろた 居宅介護支援事業所ひろた

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町裕津 405 番地

電話: 089-989-2155 FAX: 089-989-5151



小規模多機能型居宅介護事業所 やまの里たまたに

〒791-2202

愛媛県伊予郡砥部町玉谷 570 番地 1

電話: 089-989-5010 FAX: 089-989-5011

ブログ: <https://ameblo.jp/yamanosatotamatani/>



砥部町デイサービスセンター (砥部町委託事業)

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町裕津 398 番地

電話: 089-989-2211 FAX: 089-989-5151





21th

